

心の王者

太宰治

青空文庫

先日、三田^{みた}の、小さい学生さんが二人、私の家に参りました。

私は生^{あいにく}憎加減が悪くて寝ていたのですが、ちよつとで済む御話でしたら、と断つて床から抜け出し、どてらの上に羽織を羽織つて、面会いたしました。お二人とも、なかなかに行儀がよろしく、しかもさつさと要談をすまし、たちどころに引上げました。

つまり、この新聞に随筆を書けという要談であつたわけです。私から見ると、いずれも十六七くらいにしか見えない温厚な少年でありましたが、それでもやはり廿を過ぎて居られるのでしょうね。どうも、此^{このころ}頃、人の年齢のほどが判らなくなつてしまいました。十五の人も三十の人も四十の人も、また或は五十の人も、

同じことに怒り、同じことに笑い興じ、また同様に少しずるく、また同様に弱く卑屈で、実際、人の心理ばかりを見ていると、人の年齢の差別など、こんぐらかつて来てわからなくなり、どうでもいいようになってしまっているのであります。先日の二人の学生さんだつて、十六七には見えながら、その話振りには、ちよいとしたかけひき駈引ひきなどもあり、なかなか老成していた箇所がありました。いわば、新聞編輯者へんしゅうしゃとして既に一家を成していました。お二人が帰られてから私は羽織を脱ぎ、そのまま又布団ふとんの中にもぐりこみ、それから暫しばらく考えました。今の学生諸君の身の上が、なんだか不憫ふびんに思われて来たのであります。

学生とは、社会のどの部分にも属しているものではありません。

また、属してはならないものであると考えます。学生とは本来、青いマントを羽織ったチャイルド・ハロルドでなければならぬと、私は頑迷にも信じている者であります。学生は思索の散歩者であります。青空の雲であります。編輯者に成りきってはいけない。役人に成りきってはいけない。学者になりきってさえいけない。老成の社会人になりきることは学生にとって、恐ろしい墮落であります。学生自らの罪ではないのでしょうか。きっと誰かに、そう仕向けられているのでしょうか。だから私は不憫だと言うのであります。

それでは学生本来の姿は、どのようなものであるか。それに対する答案として、私はシルレルの物語詩を一篇、諸君に語りまし

よう。シルレルはもつと読まなければいけない。

今のこの時局に於てはおい尚なおよさら更、大いに読まなければいけない。

おおらかな、強い意志と、努めて明るい高い希望を持ち続ける為にも、諸君は今こそシルレルを思い出し、これを愛読するがよい。シルレルの詩に、「地球の分配」という面白い一篇がありますが、その大意は、凡およそ次のようなものであります。

「受取れよ、この世界を！」と神の父ゼウスは天上から人間に号令した。

「受取れ、これはお前たちのものだ。お前たちにおれは、これを遺産として、永遠の領地として、贈つてやる。さあ、仲好く分け合うのだ。」その声を聞き、たちま忽ち先を争つて、手のある限りの者

は右往左往、おのれの分前を奪い合つた。農民は原野に境界の柵くわを打ち、其処そこを耕して田畑となした時、地主がふところ手して出て来て、さて嘯うそぶいた。「その七割は俺おれのものだ。」また、商人は倉庫に満す物貨を集め、長老は貴重な古い葡萄酒ぶどうしゆを漁あさり、公きんだ達は緑したたる森のぐるりに早速繩を張り廻らし、そこを己れの楽しい狩獵と逢あひびき引の場所とした。市長は巷ちまたを分捕り、漁人は水辺におのが居を定めた。総すべての分割の、とつくにすんだ後で、詩人がのつそりやって来た。彼は遙はるか遠方からやって来た。ああ、その時は何処にも何も無く、すべての土地に持主の名札が貼られてしまっていた。「ええ情ない！　なんで私一人だけが皆から、かまつて貰えないのだ。この私が、あなたの一番忠実な息子が？」

と大声に苦情を叫びながら、彼はゼウスの玉座の前に身を投げた。

「勝手に夢の国で、ぐずぐずしていて、」と神はさえぎった。

「何も俺を怨むわけがない。お前は一体何処うらにいたのだ。皆が地球を分け合っているとき。」詩人は答えた。「私は、あなたのお

傍に。目はあなたのお顔にそそがれて、耳は天上の音楽に聞きほれていました。この心をお許し下さい。あなたの光に陶然とうぜんと酔

つて、地上の事を忘れていたのを。「ゼウスは其の時やさしく言った。」「どうすればいい？ 地球はみんな呉くれてしまった。秋も、

狩猟も、市場も、もう俺のものでない。お前が此この天上に、俺といたいなら時々やって来い。此所はお前の為に空けて置く！」

いかがです。学生本来の姿とは、即ち此の神の寵児、此の詩人

の姿に違いないのであります。地上の営みに於ては、何の誇るところが無くつても、其の自由な高貴の憧れあこがによつて時々は神と共にさえ住めるのです。

此の特権を自覚し給え。この特権を誇り給え。何時迄いつまでも君に具
有している特権ではないのだぞ。ああ、それはほんの短い期間だ。
その期間をこそ大事になさい。必ず自身を汚してはならぬ。地上
の分割あずかに与るのは、それは学校を卒業したら、いやでも分割あずかに与
るのだ。商人にもなれます。編輯者にもなれます。役人にもなれ
ます。けれども、神の玉座に神と並んで座ることの出来るのは、
それは学生時代以後には決してあり得ないことなのです。二度と
返らぬことなのです。

三田の学生諸君。諸君は常に「陸の王者」を歌うと共に、又ひそかに「心の王者」を以てもつ自任しなければなりません。神と共にある時期は君の生涯に、ただ此の一度であるのです。

青空文庫情報

底本：「太宰治全集10」ちくま文庫、筑摩書房

1989（平成1）年6月27日第1刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版太宰治全集第十卷」筑摩書房

1977（昭和52）年2月25日初版第1刷発行

初出：「三田新聞 第四百二十八号」

1940（昭和15）年1月25日発行

入力：杜十朗

校正：土屋隆

2003年9月4日作成

2016年7月12日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

心の王者

太宰治

2020年 7月12日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>